

七州城跡

現在、豊田市美術館がある丘は、18 世紀から 1868 年の明治維新で廃藩置県が行われるまで、
挙母藩（現在の愛知県東部）の大名の拠点であった挙母城（別名：七州城）の跡地である。

江戸時代（1603 年～1867 年）前半の挙母藩は、城を持たない比較的身分の低い大名が支配していた。しかし、1749 年、城持ち格の内藤家の領主が挙母に赴任し、幕府は城を建設するために資金を提供した。現在の豊田市の中心部に城を築くことになったが、水害に遭い、場所を高台の童子山に移し、1785 年に「七州城」が完成した。城の名前は、かつてこの丘から 7 つの国（七州）を見渡すことができたことに由来している。

18 世紀後半の平和な時代であったため、七州城は比較的簡素なつくりの城郭であった。天守閣はなく、防衛施設としては南西隅の 2 階建ての櫓（すみやぐら）や、挙母まつりで約 6 メートルの山車が転がせる高さの大門が目立つだけの城郭だった。城は 1871 年に解体されたが、櫓の石垣はそのまま残され、1977 年に復元されたコンクリート製のものを支えている。